

## 行政報告

令和6年2月15日  
伊豆市長 菊地 豊

令和6年伊豆市議会3月定例会の冒頭にあたり、行政報告を申し上げます。

### 1 能登半島地震被災地への職員の災害派遣について

去る1月1日に発生した能登半島地震に対し、県からの要請を受け、これまでに避難所運營業務に2名、罹災証明書発行業務に1名、住家被害認定調査業務に2名の計5名の応援派遣を行っており、今後も保健師等の派遣を予定しております。

災害復旧に向け、引き続き様々な業務の派遣要請が想定されますので、若手職員を中心に積極的に職員を派遣し、本市としても全力で支援してまいります。

### 2 緊急経済対策について

原油価格、物価高騰の影響を受けた市民生活の支援と市内の消費喚起、地域経済の振興を図るため、2月22日から4月末までご利用いただける商品券を発行しました。

今回の商品券は、前回の反省を踏まえ、購入方式から郵送による給付型に変更し、去る2月7日に市民1人当たり1冊(1,000円の商品券3枚)を世帯主に発送しております。

また、低所得者支援として、今年度の住民税非課税世帯に対する1世帯当たり7万円を支給する給付金事業につきましては、既に対象者へ通知を発送し、2月19日に初回の振込を予定しております。また、低所得世帯への子育て支援などの補足給付金につきましても、順次、年度内の支給開始に向けて手続きを進めているところです。

### 3 公共施設の民営化について

土肥地域にとって不可欠な温泉事業の持続的な経営と地域の活性化を図るための手法について、昨年度から関係団体や利用者に意見を聴取するなど、検討を重ねてまいりました。この度、施設を市が所有したまま運営を民間に委ねるコンセッション方式を採用することとし、今議会に関係条例を上程しております。

また、修善寺虹の郷及び達磨山観光施設の民営化に向けては、サウンディング調査に応募のあった事業者(修善寺虹の郷5事業者、達磨山観光施設8事業者)と意見交換を実施し、民営化に向けた課題や手法、誘客に向けた施設改修や新たな事業提案などのご意見をいただきました。

今後は、サウンディング調査の結果を基に管理運営方法を検討してまいります。

### 4 ICT教育の推進

ICT教育は、これからの学びに欠かせない生きる力を醸成する教育として、本市

の教育の柱の1つとして掲げております。去る1月に小学生を対象としたプログラミング教室を開催したほか、今後も、プログラミング的思考を鍛える謎解きイベントを予定しています。子どもたちの学びに必要なプログラミングに楽しく触れる機会を提供するなど、論理的思考や情報活用力の育成に繋げるため、引き続きICT教育を推進してまいります。

## 5 森林環境譲与税の活用について

森林環境譲与税を活用し、本市で初めてとなる森林経営管理制度による森林整備を中伊豆地区の約9haで実施しています。また、森林資源の地産地消を促進するため、市産材を活用した建築物への補助制度を創設し、先ごろ第1号となる新築住宅の棟上げが行われたところです。

令和6年度からは、森林環境税の課税が始まります。今後は、本税を財源として、より一層、森林環境保全に向けた取組みを推進してまいります。

## 6 包括的アウトソーシング事業について

窓口業務及び施設管理業務の包括的アウトソーシングを導入し、2年が経過します。窓口業務では、受託事業者と綿密な打ち合わせを行うなどにより、スムーズな業務遂行と市民サービスの向上に努めているほか、施設管理業務においては、契約事務等の職員負担の軽減や施設巡回による不具合箇所の早期発見などの効果が表れています。

今後も、民間事業者のノウハウを活用し、窓口業務の対象事業の拡大や施設管理業務の更なる効率化を図ってまいります。

## 7 白岩の湯改修工事について

去る1月に温泉施設を除いた旧中伊豆交流センターの解体が完了し、現在は、温泉施設の休憩室等の新設及びボイラーの改修などを行っておりますが、資機材等の入荷に遅れが生じ、再開は、5月となる見込みです。

市民の皆様にはご不便をおかけしますが、より利用しやすい施設となるよう努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。